



(昭和48年生)



4回目の年男を迎えて

東区・郡元支部 大勝 秀樹
(大勝病院)

新年あけましておめでとうございます。昨年の年初より始まった新型コロナ感染症の流行は結局収まることなく、会員の皆様におかれましては、今までにない年末年始をお過ごしになられたことだと思います。何とかしてこの新興感染症問題が終結し元の世界、あるいは新しい時代を迎えられることを願ってやみません。

私は昨年、医師会の理事を拝命するなど、さまざまな慣れない事があり、余裕もなくあつという間の1年だったように思います。そのような活動においては、先輩方と交流することも多く、常に若輩者の立場で勉強させていただくことがたくさんありました。この場を借りて感謝申し上げます。

現在の医師会および社会を取り巻く問題としてはさまざまなものがありますが、少子高齢化の問題があろうかと思います。まず、少子化問題としては、近年は出生数が減り続けており、こども手当など対策を講ずるも効果はなく、2016年にはじめて出生数が100万人を下回ったことがショッキングに報道されました。それも冷めやらぬ中、2019年の出生数は予想よりだいぶ早く減少が進んでおり早くも86万人までになったとの報道にも驚かされました。

一方で、今年、私は年男ということで私自身を振り返ってみました。今年、我々4回目の年男は昭和48年生まれになります。いわゆる団塊ジュニア世代の年代であります。中でも昭和48年生までは、“団塊ジュニア世代の中でも人口が最大の学年”，と言われ、この言葉が私の学生時代には常に回りました。受験の時も「倍率が高くなり大変だよ」と言われたことや、部活の先輩からは、「受験に落ちたら、人口が多いお前たちの学年と受験する羽目になるから絶対浪人するわけにはいかない」などと言われたこともあります。そして社会に出ると、年代による人口格差は意識しなくなりました。その代わり我々の世代は“ポストバブル世代”とされ、バブル世代の先輩方の豪快な話を聞いて驚いたり羨ましくなったり。“就職氷河期世代”と言われ、幸い、医学部卒としては就職活動の苦労は経験しておりませんが、高校の同級生からはよく苦労話を聞かされたものでした。そして更には“ロストジェネレーション”などの言葉で表現されたり、あまり誇れるような注目はされなかったように思います。

そして時は流れ、年齢も40歳を超える頃になると病院経営に携わるようになり、医療費の国家財政の圧迫の問題、そして2025年問題として再び世代間の人口格差を意識せらされることになりました。団塊世代が全て後期高齢者に達する2025年問題ですが、改めて人口を数値で考えて見ました。団塊世代のピークは270万人でありこの世代が後期高齢者を迎えるのに対し、新しく生まれる子供達は100万人もいません。今後の少子化の進行も簡単には解決しないこの状況で、4回目の年

男となりました。

我々の年代は、団塊世代には敵わないまでも210万人の人口がいる団塊ジュニア世代であります。ポストバブル世代、就職氷河期世代、そして不遇な年代とも言われたり、あまり喜ばしいネーミングはありませんが、しかし、人数だけはたくさんあります。一人一人の力は大した事は無くても頭数が多ければ人海戦術で社会、団塊世代の医療・介護問題に貢献できる力も大きいものと思います。そういう風に考えるとだんだん誇らしい気分にもなるとともに、責任の重大さも感じます。今年、4回目の年男を迎えるに当たり、いつまでも若輩者気分で先輩方に頼るだけではいけない年代になったのだな、とひしひしと感じる年明けでした。

今年もどうぞ宜しくお願ひ致します。